

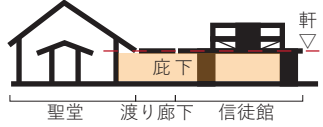
信仰と地域のための大きな家となる教会



大きな家としての教会をつくります。長い年月をかけて信仰を介して人々が集い、活動が行われてきたこの場所が、さらに様々な人と信仰を分かち合える場所となっていくために、聖堂と敷地全体がより一体となる提案をします。様々な人々や活動を受け止める大きな家となる教会を共に考え、生み出します。

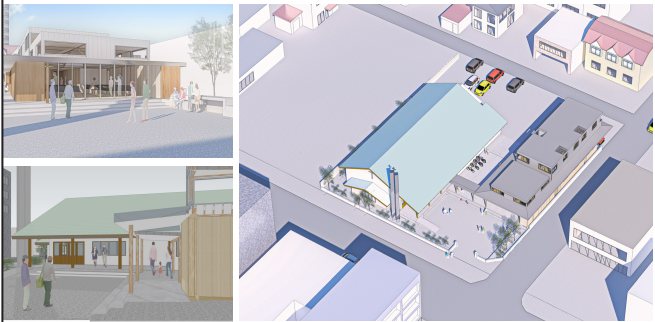
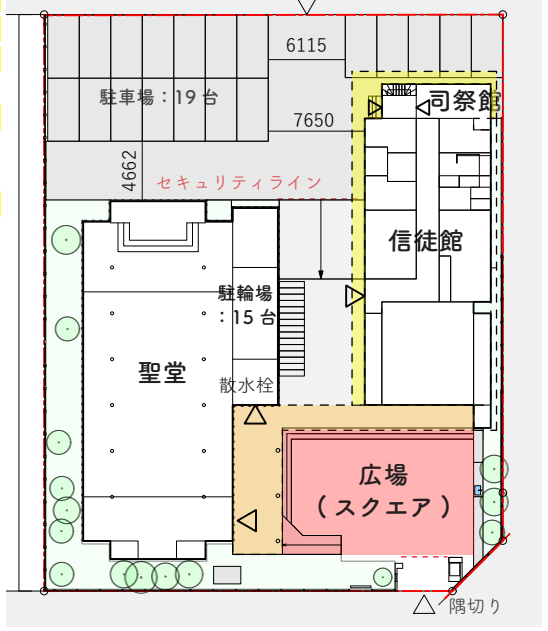
聖堂を尊重し、人々を受け止めるカタチをつくる

さくら通りの中で存在感を示している、大きな切妻屋根の聖堂を尊重して、周辺の箱型の建築と馴染むカタチとし、聖堂の象徴性を損ないません。シンメトリーに近い立面で大通りに対して、聖堂とともに規律ある立面をつくります。大通りから見た時の聖堂と信徒館、渡り廊下部分の軒のラインを描えることで、教会全体が街に開かれた印象を与え、軒下空間を介して教会が人々を受け止めます。



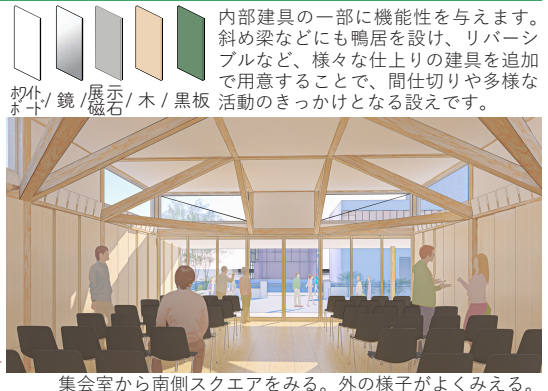
人々を受けとめ、敷地全体での活動を活発にする配置計画

基本構想C案をベースに北側に駐車場をまとめ、聖堂と信徒館の間を大きなスロープとして駐車場からの行き来をやすくし、聖堂沿いを駐輪場としています。教会のピロティ壁面と外壁ラインを描えて配置し階段を拡張することで、大通りからの人々の視線を受け止める矩形の広場「スクエア」をつくります。スクエアと活動動線に沿って庇をかけ、聖堂と司祭館・信徒館の行き来や、事務室の外部受付を雨から守るとともに、半屋外の居場所をつくります。スクエアに面した階段は踏面を広くすることで、集会室とともにステージや客席として使うことができ、スクエアでの活動を支えます。



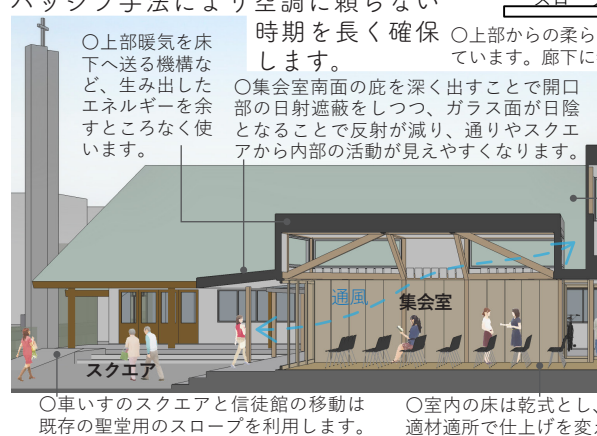
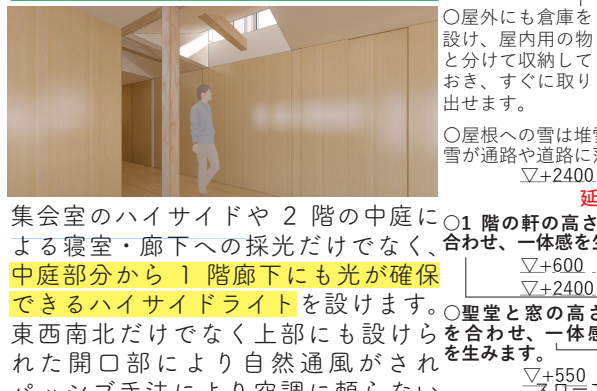
多様な活動を受け止め、交流のきっかけとなる空間と設え

多くの人が利用する集会室は7.28m角の平面を基準としてしています。少ない部材でスパンを飛ばすため四隅2.73m角の対角に梁を掛け、上部に立体トラスを組む、木によるスキッチのような形式で、正方形平面に対して集中的な空間を生んでいます。外形は箱状に立ち上げることで、多くの人が集まる空間の天井高を高く確保するとともに、適宜ハイスайдライトを設け、明るく快適な滞在したくなる空間とします。集会室の南面は全面開口でスクエアに連続しており、東西面は物の出し入れのしやすい間口の長く浅い収納とし、北面は細長い空間を設け玄関や廊下、談話室、キッチンと連携が取りやすく人が集まりやすい平面計画としています。立体トラススキッチ集会室軸組

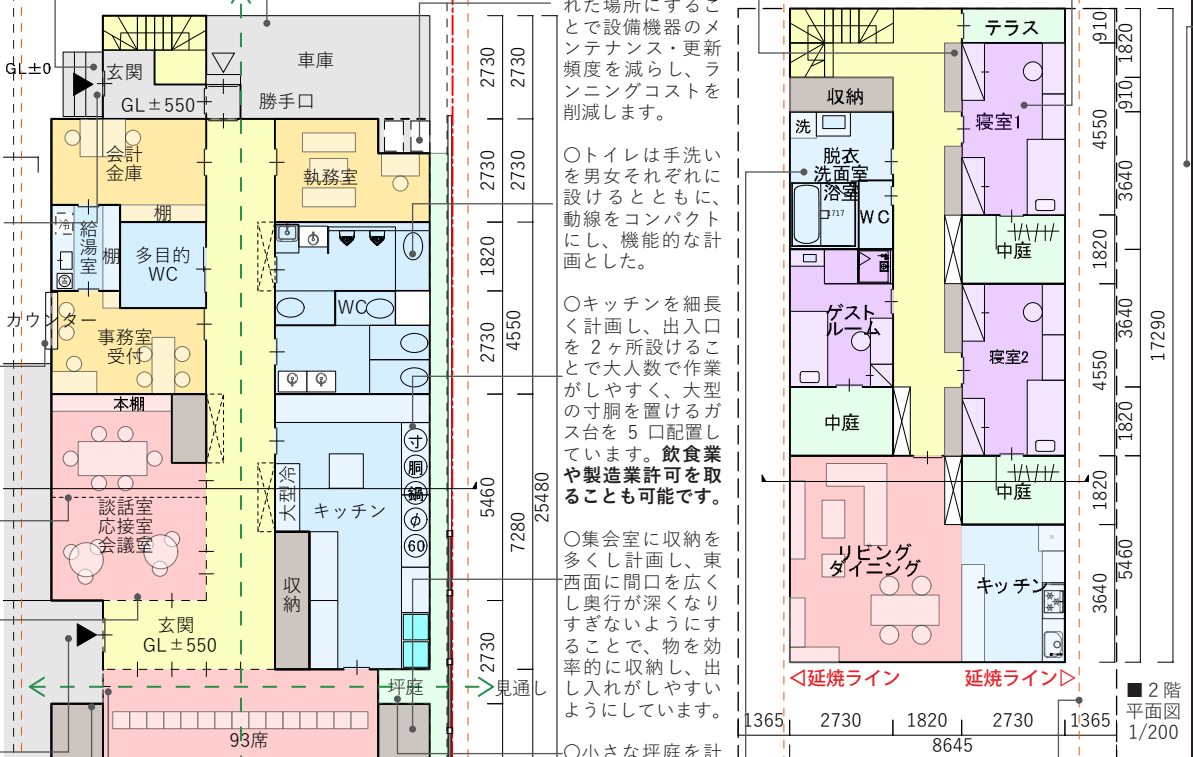


奥まで見通しのよく明るい機能的な建築(3)(4)

平面構成は、建築中央の幅1820mmの通り芯が1・2階の廊下、集会室の構造の中心となっており、南面庇から廊下の奥まで続き、駐車場までを見通すことができます。中廊下型の室配置で諸室を機能的にまとめ、平面外形をシンメトリーの整形とすることで、コストを抑えています。1階廊下幅は有効1600mm以上で段差もないようにすることでバリアフリーに対応し、人が多く集まった際も使いやすい計画です。また、建築を予算内で木質化し、仕上げに木材を使用し、居心地の良い空間とします。



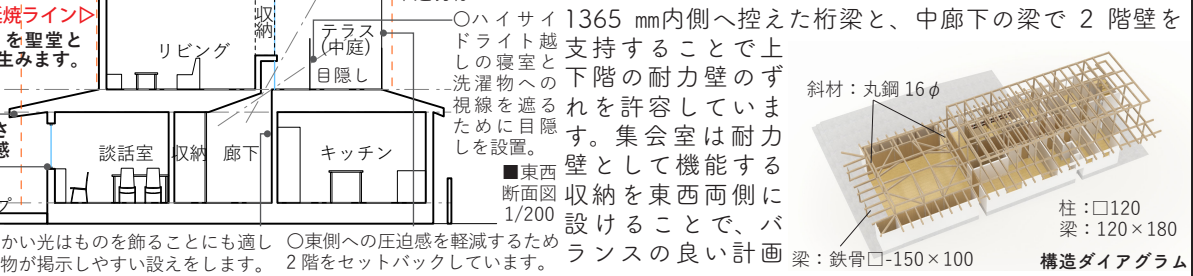
○司祭館玄関を建物西側に配置し、軒下を通して聖堂への行き来ができます。階段下を収納とし、収納量を多く確保しています。
○司祭用の駐車場は専用で動線も利用者用と分けて配置し、車庫から司祭館と信徒館それぞれへ入れる勝手口を設け、司祭の動線に配慮しています。
○空調は壁掛室内機、給湯はガス給湯器とし、更新のしやすい住宅用の設備機器とし、また機器置場を囲われた場所にすることで設備機器のメンテナンス・更新頻度を減らし、ランニングコストを削減します。
○廊下の寝室側に細長い収納棚を設け、各室の延長として私物をシェアしたり、各室を広く使えるようにしつつ、各部屋の防音効果を高めています。
○司祭の寝室を広くに計画し、東面に窓とし、南面に物干しスペースを兼ねた中庭と掃き出し窓を設けより快適に過ごせるようにした。



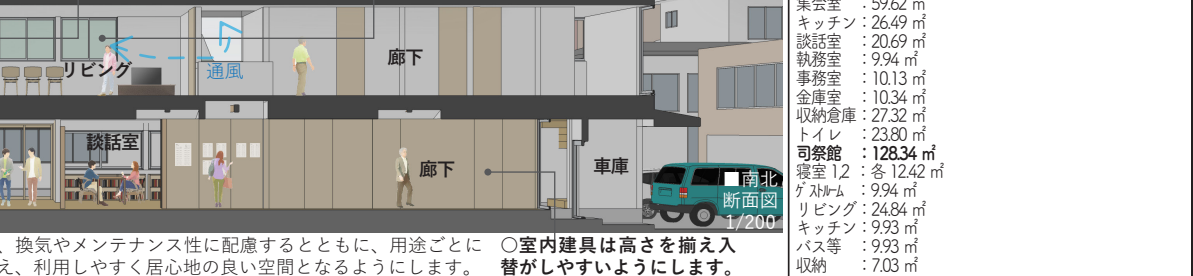
○事務諸室を北側に配置し、廊下奥に司祭館との出入口を設け、行き来がしやすいようにしています。
○事務室の受付を駐車場、駐輪場から目につきやすい位置に配置しています。
○談話室内部に間仕切りを設け、2部屋に分けて使うこともできます。
○談話室の出入口建具を引戸とし、廊下や集会室と一体で使えます。
○玄関をできるだけ建具を引戸として配置し、開口を広く確保して、行き来がしやすいようにしています。
○目の前の柱や収納部分にニッチをつくり、像を飾るなどできます。
○個別の集会室への入口も計画し、状況によって使い分けができます。
○屋外にも倉庫を設け、屋内用の物と分けて収納しておき、すぐに取り出せます。
○屋根への雪は堆雪として雪止めを設け、雪が通路や道路に落ちるのを防ぎます。

低コストで明るく広い空間をつくる

構造は材長4m以下の一般流通製材による在来木造を採用し、経済性や施工性に配慮した計画とします。材料の歩留りに配慮し910mmモジュールで軸組を配置して、高さ寸法は構造パネル材や建具の規格から階高を決めることで材料の端材や施工手間を削減しています。集会室上部に部屋を配置せず部分的に平屋の構成とすることで、集会室軸組の構造上の負担を減らします。1・2階ともに中廊下や居室の壁を耐力壁としてバランスよく配置することで、外壁面は開口部を多く設けることが可能となり、採光、通風の良い計画とします。また、短辺方向の耐力壁は1階の外壁面より1365mm内側へ控えた桁梁と、中廊下の梁で2階壁を支持することで上階の耐力壁のずれを許容しています。集会室は耐力壁として機能する収納を東西両側に設けることで、バランスの良い計画



○ハイサイドドライト越しの寝室の洗濯物への視線を遮るために目隠しを設置。
○断熱性能が高く省エネに優れた断熱材の厚みや樹脂複合サッシ+Low-E複層ガラスの開口部とし、少ないエネルギーで快適な温熱環境となる計画とします。



面積表	概算予算書(千円)(税抜)
建築面積: 247.60㎡	
延床面積: 352.34㎡	
信徒館: 22,400㎡	
集会室: 59.62㎡	
キッチン: 26.49㎡	
談話室: 20.69㎡	
執務室: 9.94㎡	
事務室: 10.13㎡	
金庫室: 10.34㎡	
収納倉庫: 27.32㎡	
トイレ: 23.80㎡	
司祭館: 128.34㎡	
寝室1.2: 各12.42㎡	
ゲストルーム: 9.94㎡	
リビング: 24.84㎡	
キッチン: 9.93㎡	
バス等: 9.93㎡	
収納: 7.03㎡	